# ふるさとの風
～文月～

（文月の由来は七月七日七夕に詩歌を献じたり、
書道の上達を祈った事からきていると言われています。）

## 河辺里（かわべのさと）夏　―伊勢新名所歌合―

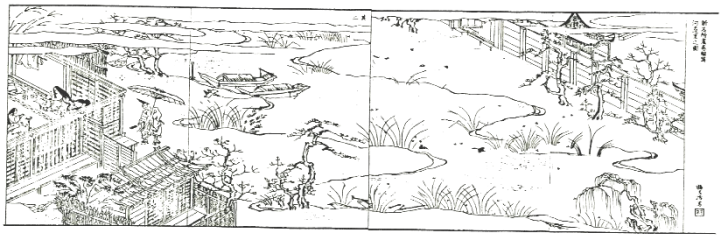
四十一番　河辺里・夏

左　　定忠

浪をやく河辺の蛍夕暗の
　　ふくれば出づる月にけたれぬ

右　　尚良

すむ人やくるれば窓に集むらん
　　河辺の里に飛ぶ蛍かな



伊勢新名所絵歌合「河辺里之図」

永仁三年（1295年）のころ、伊勢神宮の五十鈴川の河畔に隠棲していた、一人の老僧の発願によって作られたのが、伊勢新名所歌合です。

当時伊勢の名勝地として次の十ヶ所が選ばれました。

桜木里（さくらぎのさと）（春）・泉水杜（しみずのもり）（夏）・岩波里（いわなみのさと）（秋）・打越浜（うちこしのはま）（冬）

藤波里（ふじなみのさと）（春）・河辺里（かわべのさと）（夏）・岡本里（秋）・関河（冬）・三津湊（みつのみなと）（恋）・大沼橋（おおぬのはし）

そしてこれを歌題として神宮の神主や僧侶たちが、歌合を催すことを企図し、十六名が左右にわかれ、それぞれ八番ずつその優劣を競いました。

左の方人（かたうど）は、神祇権大副大中臣朝臣定忠（じんぎごんのおおいすけおおなかとみのあそんさだただ）以下八人。

対する右の方人は、大神宮一禰宜荒木田神主尚良（いちのねぎあらきだのかんぬしひさよし）以下八人。

判者は、前権大納言冷泉為世（さきのごんだいなごん）、執筆者は冷泉為相、絵は藤原隆相と伝えられています。

夏のほの暗い夕暮れ　真菰（まこも）の生い茂る川辺には蛍が飛び交い水面には鸕鷀（かいつぶり）の姿も見えている風景。

当時、河辺里に伊勢神宮大宮司として君臨していた大中臣長則の館とその付近を描いたものです。


◆　伊勢新名所歌合　（藝術資料刊行会　L723／イ）

◆　男衾三郎絵詞　伊勢新名所歌合　日本絵巻大成 12
（小松　茂美／編　中央公論社　L723／ダ）

◆　神都名勝誌　巻一～三　（神宮司廳／編　皇學館大学　L243／シ／1）

◆　群書類従　第十二輯　（塙保己一／編　続群書類従完成会　L081／グ／12）



図書館だより
2010年7月号より